

## ラムサール条約湿地「琵琶湖」の概要

### 1. 概観

琵琶湖は世界で3番目に古く日本で最も大きな湖である。琵琶湖を囲む分水嶺は、ほぼ県境線に等しいので、県内に降った雨や雪のほとんどは大小460本の河川から湖に注ぎ、瀬田川から流れ出る。

湖に飛来する水鳥は約5万羽、湖中には約200種のプランクトンと約50種の魚類が生息し、ホンモロコなどの固有種も多い。

### 2. 面積および保護施策

65,602ha

自然公園法（琵琶湖国定公園特別地域）

鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律（琵琶湖鳥獣保護区）

### 3. 管理当局

滋賀県、国土交通省

### 4. 関係市町

琵琶湖沿岸10市4町

（大津市 彦根市 長浜市 近江八幡市 草津市 守山市 野洲市

高島市 東近江市 米原市 湖北町 高月町 木之本町 西浅井町）

### 5. 登録年月日

平成5年6月10日

### 6. 登録基準と琵琶湖（登録当時）

基準：特定の生物地理区を代表するタイプの湿地

琵琶湖には70種以上の植物を数え、大きな特徴として大規模なヨシ群落がある。

基準：生物多様性の維持に重要な動植物を支えている湿地

琵琶湖に生息する魚類は53種があり、ホンモロコ、ニゴロブナなど固有種11種も数える。

基準：定期的に2万羽以上の水鳥を支える湿地

琵琶湖には172種の鳥類を記録。特に、渡り鳥の重要な基地で、平成5年の調査で、49,999羽の水鳥が数えられた。